

第3回篠山市総合教育会議 議事録

1. 日 時

平成28年11月24日（木） 13時30分～15時30分

2. 場 所

市役所第2庁舎3階 2-302会議室

3. 会議に出席した構成員

市 長	酒井 隆明
教育委員会	
教育長	前川 修哉
教育委員	酒井 克典
教育委員	中村 貴子
教育委員	垣内 敬造
教育委員	井上 友香

4. 構成員以外の出席者

教育部長	上田 英樹
------	-------

5. 塾関係者出席者

AOI 学習塾	小谷 和徳
English School Labo	西村 源
English School Labo	西村 嶺
T A N O 塾	田野 守茂
小山数学セミナー	小山 芳弘
進学塾アイズ篠山教室	赤枝 裕輔
新 世 塾	梶谷 元
スタディーキャンパスレオ	高田 貴美彦

6. 事務局出席者（教育委員会事務局）

	次長	松笠 勝也
教育総務課	課長	小林 康弘
学校教育課	課長	尾松 直樹
教育総務課	係長	山本 圭太
教育総務課	主事	河野 元秀

7. 次第及び協議・調整事項

別紙の通り

市長	1 開会
市長	2 報告・協議事項
塾関係者	近年子どもの学力低下を感じている。公教育と塾の指導の住み分けが必要である。
教育委員	子どもの学力が低下している中で、塾と公教育の連携が必要である。
塾関係者	ある中学校の英語の定期テストで、1年生時は0点から30点台の生徒が3人であったが、2年生時では21人になっている。人数が増え、この範囲の生徒が学年で一番多い割合を占めるようになってきている。他の学校でも同じような状況が起きている。
市長	知らなかった。
教育長	そのデータは全生徒の点数を基にしたデータか。
塾関係者	そのとおりである。学校が親に向けて作った資料である。
塾関係者	ゆとり教育が終わったが、できる子とできない子の差が生まれるような教育に変わったのか。
教育委員	市内中学校の英語では2クラスに分けて、比較的点数の低いクラスには、主の先生が指導し、それ以外の生徒は副の先生が指導している。平均点を上げるためにこのような指導法になっているのではないかと思う。
塾関係者	学年が上がるにつれて学力に大きなばらつきがでてきている。成績上位層が減り、成績下位層が増えている状況である。
塾関係者	市内中学校で上位の成績だった生徒でも、三田市の進学校では最下位の成績であった。全体的な学力低下も感じる。
塾関係者	精神的に未熟な親が増えたのが原因ではないだろうか。子どもの教育に関心がない親が増えていると感じる。
塾関係者	全体的に学力の低下を感じる。相対評価のため、ある程度努力をすれば、通知表でよい評価をもらえる。そのため三田市内の高校に進学できるが、入学後学力的におくれを取ることが多い。中学の評価の付け方が甘い。評定評価の仕方から変えていくべきではないだろうか。
市長	学校と塾では教えている内容が違うのか。
塾関係者	おおよそ同じである。しかし、生徒に合ったレベルで授業が行われていない現状である。できる子には簡単で面白くない、できない子には難しく分らない、面白くないというどちらにも合っていないレベルで授業が行われている。また、授業中の生徒の態度も良くない。授業中の立ち歩きが目立ち、子ども達が落ち着いて授業を受けることができていないように見られる。このような現状に保護者から不満が増えている。とくに成績上位層の保護者は公教育に不満を持ち、中学受験が増えている。
教育委員	厳しい現状であることは分かった。問題であると感じるのは、親が学ばせることを放棄している点と子の学ぶ意欲の低下している点、貧困による

	<p>学力の格差が起きている点である。その中で教師はどのような指導を行うべきであるのか。これからは自ら問題を提起し、自ら解決できる力が必要になる。そのような力を身に付けさせるためにも、塾と公教育が連携を図り、教師の指導力の向上、生徒の学力の向上を共に考えていくことが必要である。</p>
塾関係者	<p>成績上位層も減っているのか。</p>
塾関係者	<p>生徒の絶対数が減っているため、それに比例して減っている。鳳鳴高校では8クラスが4クラスになった。成績上位層も半数に減ったように思う。県内でも同じような状況で、県内の伝統校でも定員割れが起きている。教師の質の低下も見られる。「あの先生に教えてもらっても分からない。」との声を生徒から聞く。教師の愛校心の低下も感じる。ただでさえ、生徒数が減少している中であるのに、教えてほしいと思えない教師のいる学校を生徒は選択しない。塾と学校の管理職教員が連携を取り、地元高校への進学を選択してもらえよう取組を行わなければならない。</p>
塾関係者	<p>過去から見ると一流校へ進学する生徒が減った。生徒数の減少に伴って競い合いがなくなり、学力低下につながっているのではないだろうか。</p>
教育委員	<p>篠山市の抱えている課題は全国的なものであるのか。また市内高校へ市内中学生を進学させるためのアイデアをいただきたい。</p>
塾関係者	<p>全国の5万人程度の規模の都市、地域では起こっている。県内でも赤穂市、豊岡市なども似た状況である。県教委も問題視している。</p> <p>市内高校へ進学させるアイデアとして、高校コースという設定を類型という形に変更する方法を提案する。コースという設定では入学後学力に変動があってもクラス変更ができず、学力的についていけない、また物足りないという生徒に対応できない。これが類型では学年が変わる際にクラス変更ができ、この問題が解消される。生徒の入学後の不安を少しでも取り除けるのではないか。</p>
塾関係者	<p>成績上位層はひどくない。</p>
塾関係者	<p>そのとおりである。</p> <p>遠距離通学等が原因であるのか分からないが、篠山出身の生徒は三田市内の高校で活躍できていない。地元の子どもは地元の高校に進学するのが良いと考える。</p>
市長	<p>神戸大学の学生が塾を開設されるそうだが、市は関係しているのか。</p>
塾関係者	<p>関わっていない。</p> <p>教科指導専門の教師と生活指導専門の教師を分けることは可能であるのか。可能であるのならば、教科指導のプロ教師を育成し、学力向上を図っていくのが良いのではないか。</p>
教育委員	<p>中学校の教師は生活指導や部活指導で時間が割かれ、授業の準備に時間が取れておらず、決して手を抜いている訳ではないが専門性を活かした教師らしさを発揮できていないのが現状である。しかし、ここ数年は改善に向けての取り組みが行われている。公教育と塾、それぞれに専門があり良</p>

<p>塾関係者</p>	<p>い点がある。協力し合って篠山の教育をより良いものにしていく必要がある。</p> <p>また、地域の方々、保護者が教育に関心を持つことも重要である。生活指導やクレームの対応に時間が割かれている現状を打開するためにも、地域の方々の協力、保護者の理解が必要になってくるのではないだろうか。</p> <p>コミュニケーション不足の教師が増えているように感じる。学力や指導法に関する研修も重要だが、コミュニケーション能力を上げるような研修が必要である。例えば、叱り方講座など、今の子どもや親に対応できるような意味のある、実りのある研修にしなければならない。</p> <p>職員室内でのコミュニケーションも取れていないことも原因になっているのではないのか。</p>
<p>塾関係者</p>	<p>今の教員は昔に比べて事務的な仕事量が増えており忙しいと思うが、研修等の時間は確保していただきたい。</p>
<p>塾関係者</p>	<p>保護者が学校に入りすぎて、教師が引いている。教師が叱ると保護者からのリアクションがある。教師がアクションを起こせない。</p>
<p>教育委員</p>	<p>塾と学校の情報交換ができていない。塾に入ってくる情報と学校に入ってくる情報を交換できるようにしていかなければならない。</p>
<p>塾関係者</p>	<p>すべてのクレームが正しいものではなく、おかしなものもある。しかし、学校はその情報を受け取り、改善する努力をしなければならない。小学生の間は地域とのコミュニケーションがとれている。中学校になるとそれがうまくいっていない感じがする。</p>
<p>塾関係者</p>	<p>世の中は凄いスピードで変化しているが指導方法、教えている内容、評価方法は時代にあっているのかと疑問に思う。英語の指導で例えると、「ピリオド付け忘れていないか。」などの本来伝えたい本質とずれた指導をしなければならない。そうではなく、今の時代で生きていくために必要な本質的な力を身に付けさせる指導をしたい。そのためにも学校で教える内容や評価方法を変更していただきたい。</p> <p>地元に残る子どもを育てたいのであれば、地元にあった、地元で生きる力を身に付けさせる教育でなければならない。特色のある教育に変更し勝負をしていかなければ生徒の流失は止まらないと思う。</p>
<p>塾関係者</p>	<p>すぐに諦める子どもが増えているように感じる。昔はやり遂げるまで泣きながらも教室に居残りさせられて勉強していた。学校が子どもたちに求めるもののハードルが低くなっているのが原因の一つになっているのではないか。</p>
<p>次長</p>	<p>指導法の改善をしている。教師の持っている知識の提供だけを行うような授業ではなく、生徒自らが課題意識を持って、自ら解決策を考えるような学びの充実を感じることでできる授業づくりに取り組んでいる。一朝一夕に改善できるものではないが、教師主体のワーキングチームやプロジェクトチームを作成し、課題や問題点を話し合い改善案の模索をしている。</p> <p>また学校で起こる生徒指導や特別支援等の様々な課題に対して、アドバ</p>

教育委員	<p>イスを行う機関「教育支援センター」を設置している。</p> <p>世の中は刻々と変化しているのに、一朝一夕で変わらないと言っているはいけない。1年2年で改善された指導がなされなければとんでもない事態になる。教育委員会事務局を含めて即刻変わっていく意識がないと時代に遅れてしまう。</p>
市長	<p>今日の話聞き、篠山市の教育が信頼されるものに変化する必要を感じた。しかし、悪いところばかりではないと思う。学力に関しては少し課題があるが、数年前に比べて学校の雰囲気は改善されていると感じる。去年から学校訪問を行っており先日も西紀中を訪問したが、生徒が非常に純朴で好感の持てる生徒が多い。高等学校に関しても、産業高校の校長によると、阪神間の生徒に比べ、産業高校の生徒は生活態度が格段に良いとのことである。篠山市内の高校が三田市内の高校に負けていると私は思わない。</p>
塾関係者	<p>公教育をまず変えてほしい。公教育に合わせてプラスアルファに教える形の指導をしている。公教育の手助けをしたい思いもある。</p>
教育委員	<p>塾でもっと地元高校を勧める指導をして欲しい。地元高校に進学することで生徒数が増え、生徒同士の競い合いが活発になる。そのことに教師も影響を受け変わっていくという好循環が生まれると思う。</p>
市長	<p>私もそう思う。塾の先生の言葉は生徒、保護者に大きな影響を与えていると思う。ぜひとも地元高校を勧めるように伝えていただきたい。</p> <p>また、篠山市内高校出身の卒業生も素晴らしい方がたくさんいる。そのことも含めて地元高校の素晴らしさを伝えていただきたい。</p>
塾関係者	<p>篠山市の小中高が触れ合う機会をつくるべきである。小学生は高校がどんなところであるのか分かっていない。小、中学生は年齢の近い高校生にアドバイスをもらう方が大人に言われるより良い影響があると思う。</p>
教育長	<p>学校では多様な立場の方々と議論がなされておらず、教師同士による議論が中心となっていると感じる。また本来授業改善等に使われるべき数値、データをうまく活用できておらず、改善をする仕組みが発達していないようにも感じる。学校は多様な立場の方々と議論を行い、様々な変化を取り入れていく必要がある。</p> <p>子ども達に関しても様々な人と触れ合う機会がなく、情報を得る方法がインターネットになっている。公教育でコミュニケーション能力を身に付けることができるように、社会に触れ、コミュニケーションを取る機会を提供していきたい。その方法としてコミュニティスクールも考えている。今日のことを校長会等で学校現場に伝える。教育改革に取り組み、子どもたちにとって魅力ある社会をつくっていきたい。</p>
塾関係者	<p>信頼される教育とは魅力的な教育であると考え。個性を伸ばしてくれる教育に生徒は魅力を感じると思う。生徒が進学したいと思う教育に変えていかなければならない。</p>
塾関係者	<p>学校の授業の補填に塾があると考えている。できることであれば協力していきたいと思う。</p>

塾関係者	学校外で子どもたちと関わる立場として、子どもたちの視野を広げる手伝いをしたい。
塾関係者	今日の会議では、生徒自身の意見が出てこなかった。生徒の目線に立った改善や取組を行い、生徒が学校に行きたい、学校が好きと思える学校づくりをしてほしい。
塾関係者	教師は忙しいと思うが教師と話し合う機会があればよいと思う。
塾関係者	保護者に良い情報を発信していきたい。良い情報が回れば地域のコミュニティでも学校に対する明るい話題が増えると思う。
塾関係者	生徒の良さを引き出して、篠山の発展に貢献していきたい。
塾関係者	教師だけでなく、篠山市民全体で子どもを育てていく必要があると思う。
教育委員	学力低下は夢を持っていない子どもが多いからであると思う。夢を持つような教育にして欲しい。
教育委員	塾と公教育の交流の場を持ってほしい。都市圏と同じ教育ではなく、篠山らしい教育を進めて欲しい。
教育委員	競い合うことで子は成長していくと考えている。塾に通う子の親として、競う場を提供していただき感謝している。先ほどの話であった「子どもの目線」という意見に共感した。子どもの目線を大切にしたい教育にして欲しい。
教育委員	学びは面白いと思うことから始まる。面白いと思える学びの場ができるように協力して取り組みたい。
市長	それでは平成 28 年度第 3 回の総合教育会議を終了する。